

# 島根県競技力向上対策本部 第4回本部会議次第

日時：令和5年8月29日（火）14：00～15：30

場所：島根県市町村振興センター 6階「大会議室」

## 1. 開 会

2. あいさつ 本部長（島根県副知事 松尾 紳次）

## 3. 報告事項

- (1) 競技力向上対策本部事務局の組織体制 . . . . . 資料1
- (2) 第4回～第7回 選手強化対策委員会の概要 . . . . . 資料2

## 4. 承認事項

- 第1号議案 本部役員の変更 . . . . . 資料3
- 第2号議案 令和4年度収支決算 . . . . . 資料4-1  
資料4-2
- 第3号議案 令和5年度収支予算及び事業計画 . . . . . 資料5-1  
資料5-2
- 第4号議案 島根かみあり国スポ強化指定校の指定 . . . . . 資料6
- 第5号議案 スポーツ医科学サポート専門部会の設置 . . . . . 資料7

## 5. 協議事項

- (1) 育成期の取組状況と課題及び令和6年度に向けた事業検討 . . . . . 資料8
  - ① 医科学サポートの体制整備 . . . . . 資料9
  - ② 高校生の競技活動支援事業 . . . . . 資料10
  - ③ 中学生の競技継続対策事業 . . . . . 資料11
  - ④ 成年選手の確保強化事業 . . . . . 資料12

6. あいさつ 副本部長（島根県環境生活部長 西村 秀樹）

## 7. 閉 会

第4回 島根県競技力向上対策本部会議 出席者名簿

(敬称略 順不同)

【島根県競技力向上対策本部委員・監事】

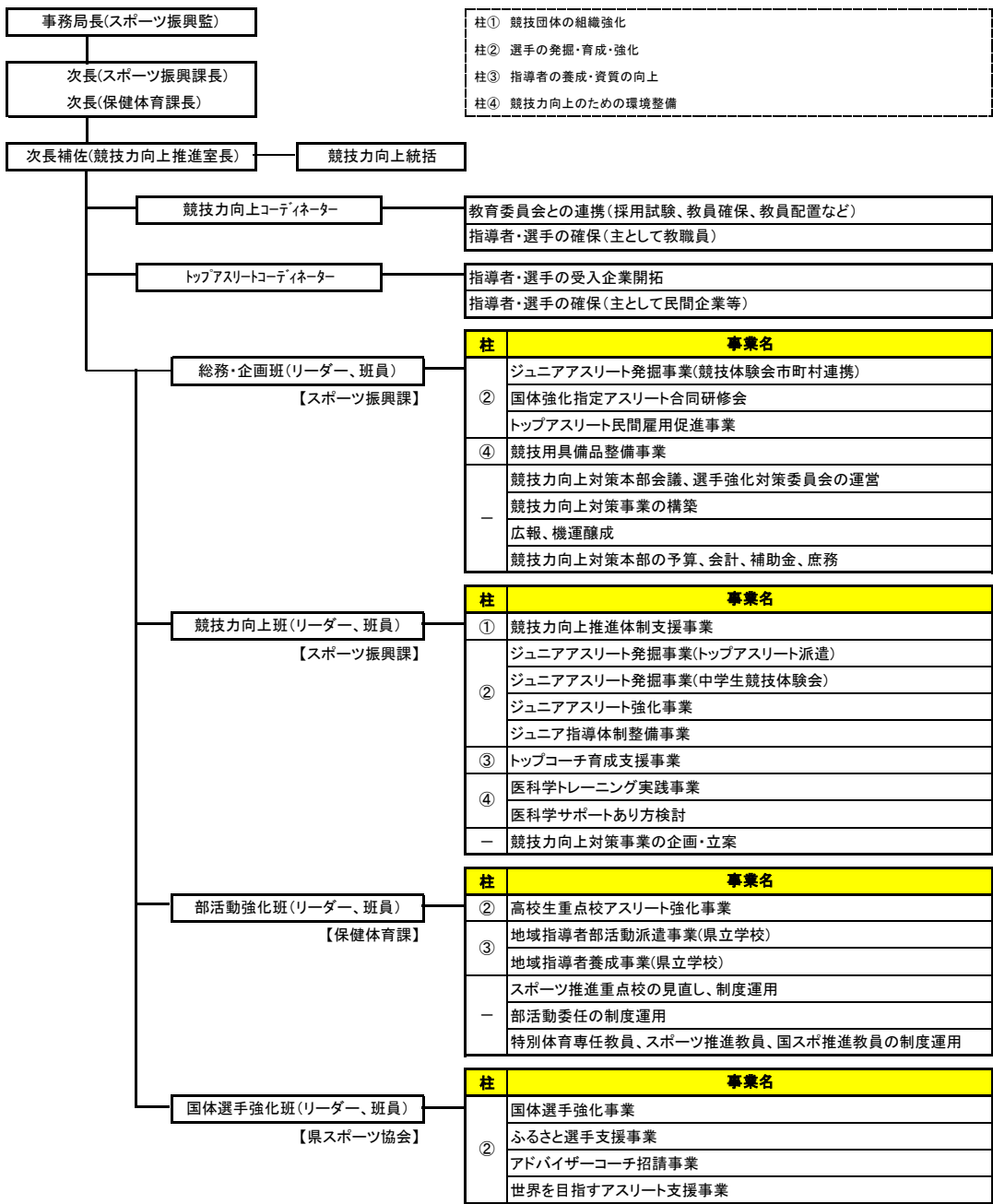
役 職	氏 名	出 欠
島根県副知事	松尾 紳次	欠席
公益財団法人島根県スポーツ協会理事長	田部 長右衛門	欠席
島根県環境生活部長	西村 秀樹	欠席
島根県市長会長	久保田 章市	(代理出席) 常務理事 藤間博之
島根県町村会長	池田 高世偉	(代理出席) 常務理事 今岡 良
島根県教育委員会教育長	野津 建二	
島根県市町村教育委員会連合会会長	杉谷 学	欠席
島根県商工会議所連合会幹事長	松浦 俊彦	
島根県商工会連合会会長	高橋 日出男	
島根県中小企業団体中央会会長	杉谷 雅祥	
公益財団法人島根県スポーツ協会専務理事	竹内 俊勝	
公益財団法人島根県スポーツ協会スポーツ医・科学委員長	伊達 伸也	
株式会社山陰合同銀行執行役員人事部長	三島 淳	
株式会社中筋組代表取締役社長	中筋 豊通	(代理出席) 管理部次長 矢田 誠
島根県小学校長会長	玉木 康之	
島根県中学校体育連盟会長	安達 正治	
島根県高等学校体育連盟会長	山崎 誠	
島根県立大学名誉教授	岸本 強	
オリンピック(東洋大学教授)	土江 寛裕	欠席
島根県会計管理者	仁科 慎治郎	
公益財団法人島根県スポーツ協会監事	佐藤 行生	

【島根県競技力向上対策本部事務局】

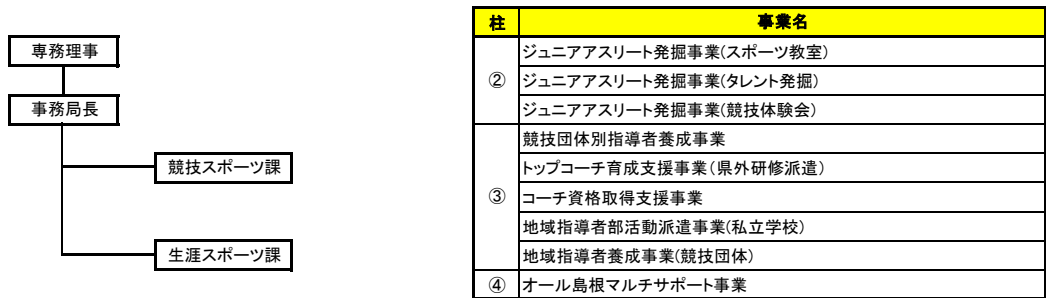
役 職	氏 名	所 属
事務局長	中澤 信善	島根県環境生活部スポーツ振興監
事務局次長	青木 悟	島根県環境生活部スポーツ振興課長
事務局次長	徳永 恵美	島根県教育庁保健体育課長
事務局次長補佐	松本 守正	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 室長
競技力向上統括	井場 浩	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 競技力向上統括
競技力向上コーディネーター	佐藤 睦也	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 競技力向上コーディネーター
事務局員(総務・企画班)	森山 順一	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主任
"	森脇 卓哉	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主任
"	石出 創士	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主事
事務局員(競技力向上班)	井上 明久	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 課長補佐
"	吉田 理知	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹
"	膳棚 大剛	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主事
事務局員(部活動強化班)	大田 修子	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 課長補佐 島根県教育庁保健体育課 企画幹
"	山口 陽子	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹 島根県教育庁保健体育課 指導主事
"	角田 裕之	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹 島根県教育庁保健体育課 指導主事
"	宝正 隆志	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹 島根県教育庁保健体育課 指導主事
"	江角 貴人	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹 島根県教育庁保健体育課 指導主事
事務局員(国体選手強化班)	陶山 和秀	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 課長補佐 (公財)島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 課長
"	福岡 康二	(公財)島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 課長代理
"	岩本 紘明	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹 (公財)島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 指導主任
"	早戸 美優	(公財)島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 体育指導員

令和5年度 競技力向上対策本部事務局の組織体制

1. 対策本部事務局の体制(対策本部実施分の事業を担当)



2. 県スポーツ協会事務局の体制(県スポーツ協会委託分の事業を担当)



3. 各競技団体の対応

- (1) 競技団体への指導・助言 (2) 課題・要望対応 (3) 計画策定・見直し支援 (4) 強化費の交付 (5) 指導者・選手の確保支援

★対策本部職員が各競技を分担して担当し、上記業務を実施(競技力向上統括が統括)

## 第 4 回 島根県選手強化対策委員会の概要

1. 期日 令和 4 年 8 月 10 日 (火) 13:30~15:30
2. サンラポーむらくも
3. 参加者 委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 15 名 合計 17 名
4. 内容

## (1) 報告事項

- ・競技力向上のための指導者確保の取組

## (2) 協議事項

- ・令和 6 年度以降の高校重点校
- ・令和 5 年度の競技力向上対策事業 (少年選手の強化)

## (3) その他

- ・段階的な地域移行に向けた部活動改革

## 5. 質疑応答・意見

## 【報告事項】

(委員)

- ・部活動の委任について、この制度を活用できる生徒の競技レベルなどの制約はあるのか。また実際はどのような部活動か。

(事務局)

- ・特に競技レベルは問わない。現在は 5 つの部活動から申請が上がっている。

(委員)

- ・教員の特別採用試験の一次試験の加点は具体的に教えてもらえるのか。

(事務局)

- ・150 点満点中 10 点の加点である。

(委員)

- ・今年の対象競技である陸上、ホッケー、ソフトボールの受験者はいたのか。

(事務局)

- ・どの競技とは限定できないが、受験者はいたと聞いている。

(委員)

- ・国スポ推進教員とスポーツ推進教員の違いは何か。

(事務局)

- ・国スポ推進教員は 2030 年の国スポまで一つの学校で勤務できる制度で、異動ポイント 1 つを獲得できる。スポーツ推進教員は従来通り一つの学校で勤務ができるもの。

(委員)

- ・国スポ推進教員は本人の意志や競技団体の推薦があれば指導実績は問わないということか。

(事務局)

- ・その通りである。

## 【協議事項】

(委員)

- ・バドミントンは1つの学校に集めて強化することに限界を感じている。選手の数も少ない。将来について保護者や選手の考えもある。バドミントンとしては競争型で強化することが良いと思う。各学校で強化した選手が国体でも活躍できるよう、協会と高校の指導者の連携が必要である。

(委員)

- ・資料には強化校となっているが、従来の重点校とのすみわけはどうか。重点校とはインターハイに向けた強化というイメージが強いと思うが、ネーミングが変わることで学校現場の士気が下がるのではないか。

(委員)

- ・島根県は重点校に強化のウエイトが偏っている。国スポに向けては競技団体が中心になって取り組んでもらうということで競技団体への強化費の配分額を大きくしてはどうか。

(委員)

- ・私学への支援を充実させてほしい。一人の先生がご自身の生活を犠牲にして強化に取り組んでいる。大会引率の運転手の経費、寮母を雇う経費、スカウトの経費、学校を空ける際の残された選手を指導するための経費などを支援してほしい。

(委員)

- ・R6年度からの指定はR12年度まで変更はしないのか。また学校を指定したとしても指導者がいないと生徒は集まらないのではないか。教員がいるところを指定することも考えられるのではないか。指定校プラス個人で能力が高い選手を含めて選抜チームとなるような柔軟な方法を考える必要がある。陸上などは国体種目が頻繁に変わる。直前に種目が決定した段階で集中的に強化費をつけることを考えておいた方がよい。

(委員)

- ・強化には何よりも指導者が重要。指導者のいる学校を強化指定校にする。一方で3年～5年程度で成果が上がっていなければ学校を変えるのではなく指導者を変える方法が良いのではないか。またスポーツ医科学、指導者の研修（全国の最新の指導法）、重点校へ強化費をつぎ込むべきであるし、重点校へつながる中学校などを指定校のように強化して指導者やサポート体制を手厚くすべきである。また指定校の学校長へは学校全体が協力体制を組めるように依頼をすべきである。

(委員)

- ・指定校の教員はかなりのプレッシャーになると思う。周りからみればやって当たり前と見られるはず。思い通りにいかないこともある。部活動指導員などを活用して指定校には経験豊富なサポート教員をつけるなど、必要ではないか。

(委員)

- ・競技人口の少ない競技で全国で勝っている県は複数の指定校と複数の指導者が配置されており、競争型が県内で整っている。フェンシングも現状では拠点型かもしれないが、R6年度以降見直しがあるということなので、将来的には競争型になるように取り組んでいきたい。

(委員)

- ・選抜型の中に私学も含まれるのか、ベスト4ぐらいの学校を該当にするのか、ベスト2なのか、競技団体と十分話をしておく必要がある。

(事務局)

- ・選抜方法については競技団体に一任する考えでいる。

(委員)

- ・6つの型について、十分に話をする必要があると思うが、次の委員会までに競技団体とは話をする機会があるのか。ソフトボールのように、ある程度こちらの考えを持って進めていかないと動かない競技もたくさんある。動きの遅い競技団体については、12月までに入り込んで進めていく競技がある。

(事務局)

- ・直接話をする機会はない。このようなパターンで強化ができないかという願いは現在までのところできている。12月以降の競技団体とのヒアリングでは話ができると考えている。

## 【その他】

(委員)

- ・今後のスケジュールについては市町村へ早く伝えてほしい。

(事務局)

- ・県としては、R5～R7の間に推進計画の作成を求めることになる。それについての説明会を今年度中に実施することとしている。

(委員)

- ・高校の部活動については今後どのような動きになるのか。

(事務局)

- ・資料P.36の欄外に記載されているとおり、現段階として中学校のようなスケジュールは示されていない。

(委員)

- ・地域移行の際の指導者バンクのような制度が保体課にあるのか。

(事務局)

- ・地域移行の指導者の受け皿の制度は現状整っていない。そこは大きな課題で今後の最重要課題。

(委員)

- ・各学校で指導者を具体的にどのように探すのか。

(事務局)

- ・競技力の向上を考えると競技団体が関わっていくことが大きいらしく、地域の普及等を考えると地域の人材などが関わっていくことになるのか。

(委員)

- ・社会人選手等が役に立てることはないのか。県から会社へ働きかけてもらおうと地域貢献という形で協力できる。その際に活動の場所の確保も必要になるが、その協力も県としてお願いしたい。

(委員)

- ・地域移行の際に指導者への手当を支給できる予算の十分な確保があれば、社会人選手やリタイアした指導者などを活用しやすいのではないかと。予算確保の見通しはどうなっているのか。

(事務局)

- ・モデル事業の3地区も予算面が課題である。具体的なことは不明である。

(委員)

- ・指導者の確保の方法として、市町村の体育協会など活用してはどうか。

## 第5回 島根県選手強化対策委員会の概要

1. 期日 令和4年12月13日(火) 14:00~16:00
2. サンラポーむらくも
3. 参加者 副委員長2名、委員14名 合計16名
4. 内容

### (1) 報告事項

- ・第77回国民体育大会(栃木国体)成果と課題
- ・トップアスリート就職支援事業の状況
- ・中学校部活動の地域移行
- ・令和6年以降の高校重点校

### (2) 協議事項

- ・ジュニアアスリートの発掘

## 5. 質疑応答・意見

### 【報告事項】

#### (委員)

- ・昨年度に比べてふるさと選手が減少したのは、招請したが集まらなかったのか、新型コロナの影響など他の理由があるからなのか。

#### (事務局)

- ・ふるさと選手の登録者数は増加している。本国体へ出場するふるさと選手が減少したということである。

#### (委員)

- ・ふるさと選手の課題として、国体前に合同練習等が実施できず本番を迎えるということを知り、それについての対応はどうか。

#### (事務局)

- ・今年度よりふるさと選手支援事業として、ふるさと選手の大会前に帰県して合同練習等を行うための旅費を支援している。

#### (委員)

- ・国スポ推進教員は体育教員限定か。指定された教員の学校に推薦入試は連動するのか。

#### (事務局)

- ・教科は関係ない。また推薦入試は連動しない。

### 【協議事項】

#### (委員)

- ・レスリングはくにびき国体以降に教室をスタートした。小学生は他競技を始めていたりするので幼年期の子どもをターゲットにした。スポーツ全般につながる基礎運動を中心にしており、他競技へ進んだりレスリングを本格的に始めたり様々である。昔に比べて少子化により子どもを集めにくくなってきている。
- ・アスリートキッズで実施されている体力測定会を隠岐でも実施していただきたい。測定会を実施するだけでも国スポの周知や子どもたちの励みにもなる。

#### (事務局)

- ・隠岐で実施した場合、優秀な子どもが本土へ出てこれるか、あるいは測定機器を隠岐まで



運ぶことができるのか、様々な課題が考えられる。

(委員)

- ・選ばれなかった子どもの中で特に早生まれの子どもは、フォローして大切にしたいほうが良い。何回も実施したり、一年間の身長伸び率が最高値に達していない子どもへのフォローも考えておいた方がよい。あるいはミトコンドリアは母親からしか遺伝されないそうで、親の運動歴を考慮するなど、人権に配慮する必要があるが、考えてみるのも一つの手である。

(委員)

- ・隠岐での実施という提案については、本部としてもどういうことができるのか、事務局でも検討していく必要があると思う。
- ・このご提案は、子どもたちが国体に参加したいとか、運動を好きになるとか、そういう機運の醸成をいかに図っていくのかということにも通じるもの。
- ・例えば今年実施した体験会は参加者が我々の目論見よりも少なく、まだまだ周知が足りないと感じている。小学校の先生などを巻き込むなど、教育委員会と連携しながら取り組んでいく必要がある。

## 第6回 島根県選手強化対策委員会の概要

1. 期日 令和5年3月13日（月）14:00～16:00
2. くにびきメッセ
3. 参加者 委員長1名、副委員長1名、委員13名 合計15名
4. 内容

### (1) 報告事項

- ・令和4年度の取組状況について
- ・令和5年度競技力向上対策の取組方針
- ・令和5年度の取組について
- ・令和7年度全国高校総体中国ブロック開催に向けた強化指定校
- ・島根かみあり国スポ・全スポの準備状況

### (2) 意見交換

- ・トップコーチ育成事業について
- ・競技団体ヒアリングでの意見

## 5. 質疑応答・意見

### 【報告事項】

#### (委員)

- ・教員採用試験のR5年度の変更点で、加点方式（10点）の変更はないか。

#### (事務局)

- ・大会入賞実績によって差がつく。現在のところそれぞれ何点になるかは決まっていない。

#### (委員)

- ・長期計画の見直しとあるが、競技団体ごとの目標得点も見直しを考えているのか

#### (事務局)

- ・競技団体との協議の中でお互いの共通認識は必要であるが、未定である。

#### (委員)

- ・「配点の高い競技から重点的に支援」とはどういう意味か。

#### (事務局)

- ・国体の競技得点のこと。

#### (委員)

- ・カウンターパートナーが県の強化事業などを情報提供して効率的に強化事業を展開してほしい。

- ・中学生のサッカーや野球をやっている生徒の中でレギュラーになれないが運動能力に特徴のある子供を他競技に進めるような働きかけを指導者にしてもらうことはできないか。

#### (事務局)

- ・中学3年や小学6年を対象にトライアウトを実施予定にしている。

#### (委員)

- ・体験会や集合研修について、どのぐらいの頻度で実施するのか。期間が空くと効果が薄れる。

#### (事務局)

- ・体験会は各競技 2 回程度体験を実施する。集合研修は 1～2 回程度を予定している。

(委員)

- ・体力測定値について、各競技で特に必要な体力値があるかと思う。その数値から競技を勧めるなどのアプローチはないのか。

(事務局)

- ・測定値の結果から、自分に向いている競技について提示するとともに、競技団体からもアドバイスをお願いしている。

(委員)

- ・運動能力だけでなく、家庭環境なども大切。保護者向けの研修も必要ではないか。

(事務局)

- ・ご意見参考にして進めていきたい。

### 【意見交換】

(委員)

- ・スポーツ医科学センターの設置についてどのように考えられるか。

(野口教授)

- ・競技を横断的に必要なこと、競技ごとに特化していること、それをはっきりと区別することが大切。またコーチが吸収できそうなことをタイムリーに提供することが大切である。

(委員)

- ・研修会を開催するときに本当に来てほしい指導者が来てもらうための方策は何か。

(野口教授)

- ・各競技のビッグイベントに重ならないように年 1 回の集合研修を実施したい。オンデマンドは各自の都合で、オンライン研修は複数実施で 1 回程度は参加にするとか、録画して後ほどみられるような形式もできる。

(委員)

- ・研修を受けた指導者がその後結果を残した場合、それを顕彰するような制度があってもよいのではないか。

(野口教授)

- ・水連ではファウンデーションからトップで教えているコーチまで、すべての指導者を讃えることもしている。企業やスポンサーなども讃えることも必要である。貴重なご意見参考にしたい。

(委員)

- ・来年度中学校単位でなく社会体育のスポーツ団体から出場申請のあった団体、鳥取 40 団体、岡山 70 団体、広島 60 団体、山口 70 団体、島根は 18 団体。島根はそれだけ地域で子供たちを育てるという機運の高まりが少ないのか。例えば 16 時まで教員の仕事をして、その後は地域に出向いて指導をするというような採用の方法を考えている教育委員会もある。地域のクラブを統合して総合型地域クラブとして横のつながりが強固になるという方法も考えられる。

(委員)

- ・フェンシングはクラブとしての活動が根付いている。くにびき国体を契機に小学校の巡回指導が普及している。社会体育を充実させるしか方法はないと考えている。

(委員)

- ・レスリングも同様に、部活のない競技は社会体育の幼年から普及活動をしている。数多くの大会を普及させている。それによって今がある。小学生から高校生までが一緒になって練習して、継続させている。

(委員)

- ・隠岐島前で勤務していたが、学校でできることが限られているが、遠征費の支援など町の支援があった。

(委員)

- ・他県の保護者から寮はないのかと聞かれることがある。市町村単位で寮の整備などできないのか。

## 第7回 島根県選手強化対策委員会の概要

1. 期日 令和5年8月9日(水) 14:00~16:00
2. ホテル白鳥
3. 参加者 委員長1名、副委員長1名、委員12名 合計14名
4. 内容

### (1) 報告事項

- ・競技力向上の取組状況

### (2) 協議事項

- ・島根かみあり国スポ強化指定校の指定
- ・スポーツ医科学サポート検討部会の設置
- ・令和6年度に向けた事業検討

### 5. 質疑応答・意見

#### 【報告事項】

- ・発言なし

#### 【協議事項】

#### <質疑応答>

##### (委員)

- ・指定校の指導者のことで今後検討して欲しいことがある。体育専任教員やスポーツ推進教員が配置されることによって、指定の競技については強化できるが、他の競技が強化できない。それがずっと続いているというのは果たして良いのか。

##### (事務局)

- ・競技力向上を進める上では、競技ありきで特別体育専任教員やスポーツ推進教員を配置しており、全て良い形で人事異動もクリアできて、他の競技も伸びていくということになると、また違った視点で物事を解決していくということになるので、それは2030年以降の話になると思う。学校の中の教員だけで解決しようと思うと解決しないことが多いので、競技団体で引っ張りだして鍛えて頂き、地域指導者、スポーツ指導員等の地域の方の力も借りて、選手の強化に努めていきたいと思っている。

##### (委員)

- ・江津高校と江津工業について、生徒がどんどん減っている中で、指導者を配置するだけで本当に成り立つのか。この件について教育委員会や事務局で議論されていたらお聞かせ願いたい。

##### (事務局)

- ・統合の話も出ているが、そういう中にあってもハンドボールについては、県内唯一のハンドボール専門の体育教員に国スポ推進教員ということで、江津高校に移ってもらった。江津を核としてやってもらうという意向を教育委員会にも汲んでいただいて、新しい学校という形になるかは分からないが、ハンドボールと水球は江津でしっかりやると、ボートについても江津工業は立派な艇庫もあるので、部活についてももしっかり意識して進めて頂きたいと要望はしている。

##### (委員)

- ・選手の方が相談に行くときに選手の方の負担とかはどんな感じか。負担の考え方があるのかないのか。また、サポートする側の経費はどのようにするのか、今後の検討課題なのか。

(事務局)

- ・診療、治療、リハビリテーションについては医療保険になる。健康相談等についてはこれから検討するが、基本的にはお金は頂かない形で今後検討する。現在、スポーツ医科学支援事業についても負担がないように実施しているので、そういったことをベースに考えていきたい。

(委員)

- ・現場で軽く聞かれたりすることは多々あるが、その時は責任を持ってないので、一般的にはこうですという話しかできない。あなたの場合はこうですというのは検査等々をしてみないと責任が持てないので、結局は病院に来てという話になる。SNSとかで一般的な相談はするという方向はあるかもしれないが、しっかりと診てあげないといけないということがあるので、できるだけ来て頂いて話をして、診させて頂いてということが原則と思っている。

(委員)

- ・選手は島根県の代表として出たいという思いは強く持っていると思う。ただ、実際に企業に入った時に今度は企業サイドで難しい条件が出てくるといことが起こってくると思うので、国スポで島根県として必要な選手なので、配慮願えないだろうかと企業にお願いすることがすごく大事だと思う。

(事務局)

- ・今後、事務局職員の体制などを強化していく中で、進学先の大学や就職先に対して、島根の選手として出してもらえよう競技団体と一緒にお願いをしていかないといけないと思っている。

(委員)

- ・高校に部活動が無い中で競技を続けている選手がたくさんいる。県外大会や中国大会、全国大会に出場する際に学校からの補助が、部活動が無い競技に対してはあまりない。中学校時代に良い成績を残しても、高校に入る時に部活動がないとほぼ全額自己負担でやらないといけないというのは、二の足を踏むということもある。学校の方で補助してくれというのは難しいと思う。全国大会に出るときに学校に部活動がない生徒については、補助ができるかどうか検討をして欲しい。

(事務局)

- ・インターハイへの参加費用を県が負担するとなると、部活動がある競技についても県が出してくれという話になってしまい影響が大きな話になるので、課題としては認識しているが、解決に向けては考えないといけない。また、基本的に学校代表なのか島根県代表なのかという事、文化系との公平性等を検討していかないといけないので、どこまでフォローできるのかは大きな課題。

(委員)

- ・高校進学時に県外流出とあるが、認定はいつするのか。

(事務局)

- ・認定の時期については、中学生の場合、本人の進路をどうしていくかということもある。この制度を全面に出して、この学校に行きなさいということはなかなか難しいと考えているが、検討される一つの要因として、もし進学されれば対象になる可能性があるということは競技団体の方から伝えて頂くことは可能。認定の時期としては中学校の段階で行うが、具体の時期等については今後検討していく。

(委員)

- ・実態として、中学生の方が進路を決めるのはかなり早い時期だと思う。まして、県外に出るといことは県外の高校から声をかけられている可能性もあり、おそらくかなり早い時期に話をする必要があると思う。

(事務局)

- ・言われるように進路はだいぶ早く決めるので、そこまでに認定するという行為は間に合わないが、要件のところでも客観的な基準を設けて、進路選択をするときに自分が該当するかどうか、事前に自身である程度わかるような形で制度を周知していく。

(委員)

- ・1競技団体1クラブだと、レスリングの場合は、隠岐のクラブと松江のクラブどっちかになってしまうので、検討して欲しい。

(事務局)

- ・ある程度条件を付けないと際限なくなってしまうので、原則という形にしており、競技によって強化すべき拠点が複数ある場合は、個別に話を聞きながら対応を考えていく。

(委員)

- ・スポーツクラブを設立した場合に、中学校の色々な大会に出られるような仕組みになるのか。

(委員)

- ・中体連の場合は、大会に出ようと思った時には現状ルールだとクラブから出るのか、あるいは学校から出るのか選択がある。学校から出るという選択をした場合には、参加料等の経費を学校が出してくれ、それに加えて学校から引率がつき、外部指導者もそこに同伴して参加することができる。逆にクラブから出るとそういった支援が一切ない。部活動がなくても中体連に加盟している競技であれば大会への参加は可能。

(事務局)

- ・すでに競技団体によっては、先行して中学生のクラブ創設を行った競技もある。ただ、大会が平日開催だと、誰が仕事を休んで引率をするのか、大会参加費への支援がないので自腹になるという課題も聞いている。そこは今後、考えていかないといけない。来年度はまずは受け皿を作ることを各競技でやって頂き、その後の活動についてはもう少し時間をかけて検討しないといけない。

(委員)

- ・この対象となるのは県外から来ている高校生も対象となるのか。どうやってその辺をアプローチしていくのか心配しているが、なにか考えがあるか。

(事務局)

- ・ふるさと選手を確保するためのツールとして、まず高校の指導者が卒業していく生徒との結びつきをこれで深めていくことに一つ狙いがある。また、指導者が変わるケースもあるので、指導者が変わってしまっても登録制度を通して競技団体が把握してくれれば、いろんな形でアプローチができる。

## 【その他】

(委員)

- ・小学校から中学校へ上がるときに例えば、石見の方に良い子がいると、これを出雲に集めたい、松江の方からも集めたい。そういうことが中学校で可能か。

(事務局)

- ・競技団体のヒアリング、要望を取り入れて指導者の配置はできるだけお願いしてやっている。子どもが動くところまで強制してくると今度は経費の問題とか親の負担とか、過疎地の方ではますます子供が減るとかいろんなことが起こる。エリアで指導者を置いておけばなんとかカバーできるという形で指導者の配置の配慮をしているということを対応策としてやっている。

(委員)

- ・石見の子が出雲の中学校に入ることは可能か。

(委員)

- ・住んでいるところの中学校に入るというのが原則なので出来ない。ただし、島根県の小学生もかなり中学校にあがる段階で流出している話も聞く。地域の指導者の家に他県から移住するようで、指導者は退職された方で動かないので、強化ができるという特殊なパターンもあるようだ。

(委員)

- ・もう何年か先は競技人口が本当に減ってくるので、来てもらわないといけない。高校の方には他県から来てくれているような現状はあるが、どこまで進むかわからない。ただ、寮はすごく充実させて頂いたので良い。アスリートキッズの振り分けを一人でもいいからこの競技にというのがあれば助かる。

(事務局)

- ・アスリートキッズでは無いが、競技転向の体験会などを小学校卒業段階と中学校卒業段階でやっていこうと思っている。部活動の枠ではなくても地域移行、地域クラブとしての活動に移行することも可能性としてはあると思う。ただ、日々親が送迎をしないといけないので課題はある。

(委員)

- ・例えば、中高一貫校を作ってしまったら、寮を作って移住させて補助制度を導入したら、うまくいくのではないかなと思った。

(委員)

- ・今度の国体は我々企業が県民として支援をしていかないといけないと考えている。特に高校の卒業生が地元に残るためには我々企業がきちんとした対応をしていくこと。国スポが7年後にあるので、それに対する支援をやっていくことで、逆にいうと2030年の国スポは我々にとっても大きな営業のチャンスとも思っている。ただ、潤って儲けるだけじゃなくこれからの教育等に耳を傾けて協力をするということで話を進めている。



## 島根県競技力向上対策本部 本部会議 委員

(本部長：1名、副本部長：2名、委員：16名 計：19名)

【本部長：1名】敬称略

役 職	氏 名
島根県副知事	松尾 紳次

【副本部長：2名】敬称略、順不同

役 職	氏 名
公益財団法人島根県スポーツ協会理事長	田部 長右衛門
島根県環境生活部長	西村 秀樹

【委員：16名】敬称略、順不同

役 職	氏 名
島根県市長会長	久保田 章市
島根県町村会長	池田 高世偉
島根県教育委員会教育長	野津 建二
島根県市町村教育委員会連合会会長	杉谷 学
島根県商工会議所連合会幹事長	松浦 俊彦
島根県商工会連合会会長	高橋 日出男
島根県中小企業団体中央会会長	杉谷 雅祥
公益財団法人島根県スポーツ協会専務理事	竹内 俊勝
公益財団法人島根県スポーツ協会スポーツ医・科学委員長	伊達 伸也
株式会社山陰合同銀行執行役員人事部長	三島 淳
株式会社中筋組代表取締役社長	中筋 豊通
島根県小学校長会長	玉木 康之
島根県中学校体育連盟会長	安達 正治
島根県高等学校体育連盟会長	山崎 誠
島根県立大学名誉教授	岸本 強
オリンピック（東洋大学教授）	土江 寛裕

【監事：2名】敬称略、順不同

役 職	氏 名
島根県会計管理者	仁科 慎治郎
公益財団法人島根県スポーツ協会監事	佐藤 行生

## 令和 4 年度収支決算（案）

## 1 収入の部

（単位：円）

科 目	予算額 (A)	収入済額 (B)	差額 (B-A)	説 明
負 担 金	217,701,000	217,701,000	0	県負担金
諸 収 入	0	680	680	預金利息
合 計	217,701,000	217,701,680	680	

## 2 支出の部

（単位：円）

科 目	予算額 (A)	支出済額 (B)	差額 (B-A)	説 明
事 業 費	212,866,000	187,053,667	△ 25,812,333	・組織体制の整備・充実 ・選手の発掘・育成・強化 ・指導者の養成・資質向上 ・選手指導者を支える環境整備 等に要する経費
事務局費	4,835,000	4,602,885	△ 232,115	事務局運営費
合 計	217,701,000	191,656,552	△ 26,044,448	


収入済額 217,701,680円 - 支出済額 191,656,552円 = 収支差額（次年度繰越額）26,045,128円（※）

※次年度へ繰越した上で、島根県一般会計へ返還

# 監 査 報 告

島根県競技力向上対策本部規約第7条第3項及び第16条の規定に基づき、令和4年度収支決算に関する会計書類について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

令和5年7月27日

監 事 仁科 慎治郎 

令和5年7月27日

監 事 佐藤 行生 

島根県競技力向上対策本部 本部長 松尾 紳次 様

令和 4 年度 国民スポーツ大会競技力向上対策事業 決算額

金額単位：千円

4つの柱	事業名	概要	事業執行	R4 予算	R4 決算	対策本部		県直執行	不用額	
						対策本部 (県スポーツ協委託)	県直執行			
1 1 整 組 織 ・ 体 充 実 的	競技力向上推進体制支援	・競技力向上計画作成に向けた情報収集のために、先催県や中央競技団体の強化関係者を招請、あるいは訪問するのに必要な経費の支援 ・強化担当者会の開催や競技力向上計画の検証・評価の検討会等を開催する経費の支援 ・島根県競技力向上対策本部や島根県スポーツ協会が開催する競技団体とのヒアリングや連絡会議などに参加する経費を支援	対策本部	7,506	11,433	11,433			8,073	
	競技団体制整備	・競技団体の中核をなす役員クラスの人物を、先催県の競技団体の取組等について調査して、組織体制の立て直しを図る	対策本部	12,000						
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 選 手 の 発 掘 ・ 育 成 ・ 強 化	ジュニアアスリート発掘事業	スポーツ教室開催支援	・将来の国体候補選手となる競技者を増やすために、各競技団体が普及を目的とした教室を開催するために必要な経費を支援	対策本部 (県スポーツ協委託)	7,000	6,471		6,471	529	
		トップアスリート派遣	・トップアスリート等を小学校や競技体験会などへ招請して、講演会や未普及競技を中心としたスポーツ体験会を実施	対策本部	1,900	1,460	1,460		440	
		タレント発掘	・運動能力の高い小学生を選抜して、多様な競技体験の中から最適な競技を選択したり、体力測定の結果により全国で活躍できる可能性の高い競技へ転向したりできるような機会を提供	対策本部 (県スポーツ協委託)	3,404	4,191		4,191		△ 787
		競技体験会	・県内各種イベントにおいて、未普及競技を中心としたスポーツ体験会を実施	対策本部 (県スポーツ協委託)	1,872	1,853	864	989		19
	ジュニアアスリート強化	・小中学生（ジュニア）の競技力向上を目的として、県内の優秀選手を選抜して県外遠征等を実施する際の経費を支援 ・R7年度に中国ブロックで開催予定の全国高校総体に向けた強化活動として、中学生の県外遠征費を支援	対策本部	31,280	28,978	28,978			2,302	
	高校生重点校アスリート支援	・高校生の競技力向上を目的として、県内有力校を重点校として指定し（R3～R5）、県外遠征の実施や強豪校等を招請する経費を支援	対策本部	38,766	35,674	35,674			3,092	
	国体強化指定アスリート合同研修会	・将来ふさと選手として国体へ出場する選手を増やすため、国体選手としての自覚や意識を高めるための、国体強化指定選手（少年）の合同研修会を実施	対策本部	1,621	0				1,621	
	国体選手強化	・国体で入賞実績のある競技の選手やチームを国体強化選手に指定して、県外遠征等の経費を支援	対策本部	34,206	29,816	29,816			4,390	
	国体入賞競技拡充	・国体での入賞競技数を増やすために、ブロック突破や本大会入賞まであと一步の競技について、県外遠征の経費を支援	対策本部	7,672	5,958	5,958			1,714	
	ふるさと選手支援	・県外で活躍するふるさと登録選手が、引き続きふるさと選手として出場することや、帰県の際にジュニア選手への指導を行うことを条件に、県の合同練習会への参加や国体県予選の出場に必要な経費を支援	対策本部	2,400	880	880			1,520	
	アドバイザーコーチ招請	・県内に優れた指導力を持つ指導者がいない競技や、振り付け等特殊な指導を要する競技について、県外の優秀指導者をアドバイザーとして招き、定期的に県内選手を指導してもらうための経費を支援	対策本部	3,384	1,810	1,810			1,574	
	世界を目指すアスリート支援	・国際大会で活躍できる選手を育成するため、全国トップレベルの実力を有する選手及びその指導者が県外及び海外遠征を実施するための経費を支援	対策本部	3,456	1,805	1,805			1,651	
	3 15 16 17 18 19 指 導 者 の 養 成 ・ 資 質 の 向 上	競技団体別指導者養成	・指導者の資質向上のため、各競技団体が開催する県外優秀指導者を講師として招いた県内研修会に必要な経費を支援	対策本部 (県スポーツ協委託)	2,052	1,364		1,364		688
		トップコーチ育成支援	・強化を中心とする指導者の更なる指導力向上を目的として、日本トップレベルの戦術やトレーニング方法を学ぶために県外へ研修する経費を支援	対策本部 (県スポーツ協委託)	7,920	449		449		7,471
コーチ資格取得支援		・国民スポーツ大会において必須となる指導者や審判員の資格取得のための必要経費を支援 ・アスレチックトレーナーの資格取得のための必要経費を支援	対策本部 (県スポーツ協委託)	1,512	1,601		1,601		△ 89	
地域指導者部活動派遣		・県内の運動部活動において、指導力の高い地域指導者を活用して競技力向上を図る学校への支援	対策本部 (私学分は県スポーツ協委託)	870	869		869		1	
			県直接執行 (公立分)	4,901	4,657		4,657		244	
地域指導者養成	・新たな指導者を育成するために、県内の優秀な指導者の下で指導実績を積みながら指導方法を学ぶことができる仕組みづくりを支援	対策本部 (競技団体分は県スポーツ協委託)	2,019	1,030		1,030		989		
県直接執行 (公立分)		2,334	1,902		1,902		432			
20	競技用具整備	・特殊かつ高額で、個人や競技団体では購入が不可能な、強化練習に必要な競技用具を整備	県直接執行	20,063	19,686			19,686	377	
4 21 22 23 24 25 26 支 援 手 の 環 境 整 備 を 備	オール島根マルチサポーター	サポーターチーム派遣 (スポーツ医学サポート)	・スポーツ医学の分野で専門的知識や技術を持ったスタッフ（トレーナー、栄養士、薬剤師等）を練習へ派遣	対策本部 (県スポーツ協委託)	6,075	5,410		5,410	665	
		遠征帯同トレーナー派遣	・1試合での運動量やコンタクトプレーの多い競技で、全国大会常連校で毎年上位入賞するサッカー競技とラグビーフットボール競技の選手が、より良いコンディションで大会に臨めるように、国体以外の全国大会へトレーナーを派遣	対策本部 (県スポーツ協委託)	990	653		653	337	
		国体チームサポーター派遣	・選手がより良いコンディションで大会に臨めるように、国体やブロック大会へ支援コーチやトレーナーを派遣	対策本部 (県スポーツ協委託)	5,353	4,973		4,973	380	
		医学科学トレーニング実践	・医学科学的指標に基づいて選手の身体能力等を評価して、日々のトレーニング効果を計測	対策本部	1,025	499	499		526	
		練習付帯経費支援	・身体接触の激しい競技で身体づくりやけがの予防のための必要経費や、特殊競技の施設利用料や普段の練習で必要不可欠な練習付帯経費について支援	対策本部	2,600	12,763	12,763		△ 10,163	
トップアスリートコーディネーター関係経費	・働きながら競技スポーツを続けることができる環境を整備するために、競技スポーツに理解のある県内企業を開拓する人材を島根県競技力向上対策本部へ配置する。	県直接執行	4,075	3,510			3,510	565		
27	県スポーツ協会人件費・事務費		対策本部	25,983	27,114	11,602	15,512		△ 1,131	
28	対策本部事務費		対策本部	4,835	4,602	4,602			233	
合 計				249,074	221,411	148,144	43,512	29,755	27,663	

事業執行	R4予算	R4決算	不用額
対策本部執行分	217,701	191,656	26,045
県直接執行分	31,373	29,755	1,618

## 令和 5 年度収支予算

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日)

島根県競技力向上対策本部の令和 5 年度収支予算は、次のとおりとする。

## 1 収入の部

(単位：千円)

科 目	当初予算額	説 明
負 担 金	250,094	県負担金
繰越金	26,046	前年度繰越金 島根県へ返還
合 計	276,140	

## 2 支出の部

(単位：千円)

科 目	当初予算額	説 明
事 業 費	245,184	・組織体制の整備・充実 ・選手の発掘・育成・強化 ・指導者の養成・資質向上 ・選手指導者を支える環境整備 等に要する経費
事務局費	4,910	事務局運営費
繰越金 返還金	26,046	島根県へ繰越金返還
合 計	276,140	

令和5年度 国民スポーツ大会競技力向上対策事業

金額単位：千円

4つの柱	事業名	概要	事業執行	R4 予算	R5 予算	増減	備考
1 整組織・体制 充実の	競技力向上推進体制支援	・競技力向上計画作成に向けた情報収集のために、先駆県や中央競技団体の強化関係者を招請、あるいは訪問するのに必要な経費の支援 ・強化担当者の開催や競技力向上計画の検証・評価の検討会等を開催する経費の支援 ・島根県競技力向上対策本部や島根県スポーツ協会が開催する競技団体とのヒアリングや連絡会議などに参加する経費を支援	対策本部	7,506	12,291	4,785	【統合】 競技団体体制整備支援事業と統合
	競技団体体制整備支援	・競技団体の中核をなす役員クラスの人物を、先駆県の競技団体の取組等について調査して、組織体制の立て直しを図る	対策本部	12,000	0	△ 12,000	【統合】 競技力向上推進体制支援事業へ統合
3 4 5 6 ジュニア アスリート 発掘事業	スポーツ教室開催支援	・将来の国体候補選手となる競技者を増やすために、各競技団体が普及を目的とした教室を開催するために必要な経費を支援	対策本部 (県スポ協委託)	7,000	8,000	1,000	
	トップアスリート派遣	・トップアスリート等を小学校や競技体協会などへ招請して、講演会や未普及競技を中心としたスポーツ体験会を実施	対策本部	1,900	2,400	500	
	タレント発掘	・運動能力の高い小学生を選抜して、多様な競技体験の中から最適な競技を選択できるような機会を提供する ・競技体験の中から最適な競技を選択し競技者としての能力を伸ばしていくための競技者育成プログラムを実施	対策本部 (県スポ協委託)	3,404	7,642	4,238	【増額】 15年生（第1期生）の競技者育成プログラム開始
	競技体験会	・未普及競技を中心としたスポーツ体験会を実施 ・中学生5年生を対象に体力テスト（トライアウト）を実施して、高校入学時に体力の優劣で競技レベルが比較的決定されやすい競技（ボート、カヌー、ウエイトリフティング、自転車、アーチェリー、ライフル射撃）への種目転向を進める	対策本部 (県スポ協委託)	1,872	1,800	△ 72	
2 7 8 9 10 11 12 13 14 16 18 選手 の 発 掘 ・ 育 成 ・ 強 化	ジュニアアスリートの強化	・小中学生（ジュニア）の競技力向上を目的として、県内の優秀選手を選抜して県外遠征等を実施する際の経費を支援 ・R7年度に中国ブロックで開催予定の全国高校総体に向けた強化活動として、中学生の県外遠征費を支援	対策本部	31,280	31,483	203	
	高校生重点校アスリート強化	・高校生の競技力向上を目的として、県内有力校を重点校として指定し（R3～R5）、県外遠征の実施や強豪校等を招請する経費を支援	対策本部	38,766	39,234	468	
	国体強化指定アスリート合同研修会	・将来ふるさと選手として国体へ出場する選手を増やすため、国体選手としての自覚や意識を高めるための、国体強化指定選手（少年）の合同研修会を実施	対策本部	1,621	1,571	△ 50	
	国体選手強化	・安定して得点していることや競技力が入賞レベルに達しており、島根県内でも上位入賞が期待できる競技（A指定）、現状では入賞レベルに達していないが開業数年前には入賞できるレベルに達することが期待できる競技（B指定）、主体的な強化に取組み開業時に入賞を目指して取組む必要がある競技（C指定）に対して、県外遠征、消耗品費等の経費を支援	対策本部	34,206	53,360	19,154	【統合】 国体入賞競技拡充事業、練習付帯経費事業と統合
	国体入賞競技拡充	・本国体での入賞競技数を増やすために、ブロック突破や本大会入賞までと一歩の競技について、県外遠征の経費を支援	対策本部	7,672	0	△ 7,672	【統合】 国体選手強化事業へ統合
	ふるさと選手支援	・県外で活躍するふるさと登録選手の、引き続きふるさと選手として出場することや、帰県の際にジュニア選手への指導を行うことを条件に、県の合同練習会への参加や国体県予選の出場に必要な経費を支援	対策本部	2,400	2,400	0	
	アドバイザーコーチ招請	・県内に優れた指導力を持つ指導者がいない競技や、振り付け等特殊な指導を要する競技について、県外の優秀指導者をアドバイザーとして招き、定期的に県内選手を指導するための経費を支援	対策本部	3,384	3,924	540	
	世界を目指すアスリート支援	・国際大会で活躍できる選手を育成するため、全国トップレベルの実力を有する選手及びその指導者が県外及び海外遠征を実施するための経費を支援	対策本部	3,456	3,168	△ 288	
	ジュニア指導体制整備	・県立体育施設が強化の拠点となる水泳（競泳）と体操について、指導者を県スポーツ協会のスポーツ指導員として配置 ・本県の競技力向上に必要と認められる指導者であり、教員や民間企業での受入が困難な者について対策本部に指導者を配置	対策本部 (県スポ協委託)	0	10,758	10,758	【新規】
	トップアスリート民間雇用促進事業	・アスリート・ジョブサポートしまね等の仲介によりアスリートを雇用した民間企業に対して雇用奨励金を支給	対策本部	0	0	0	【新規】 制度はR5年度開始だが、事業費の発生はR6年度から
3 20 21 22 23 指導 者 の 養 成 ・ 質 量 の 向 上	競技団体別指導者養成	・指導者の資質向上のため、各競技団体が開催する県外優秀指導者を講師として招いた県内研修会に必要な経費を支援	対策本部 (県スポ協委託)	2,052	1,900	△ 152	
	トップコーチ育成支援	・特任専、スポ推教員、国スポ教員対象の集合研修、課題作成（ロードマップ）、自主研修 ・強化の中心となる指導者の更なる指導力向上を目的として、日本トップレベルの戦術やトレーニング方法などを学ぶために県外へ研修する経費を支援	対策本部 (県スポ協委託)	7,920	6,219	△ 1,701	
	コーチ資格取得支援	・国民スポーツ大会において必須となる指導者の資格取得のための必要経費を支援 ・アスレチックトレーナーの資格取得のための必要経費を支援	対策本部 (県スポ協委託)	1,512	2,512	1,000	
	地域指導者部活動派遣	・県内の運動部活動において、指導力が高い地域指導者を活用して競技力向上を図る学校への支援	対策本部 (県スポ協委託) 県直接執行 (公立分)	870 4,901	3,478 5,521	2,608 620	
	地域指導者養成	・新たな指導者を育成するために、県内の優秀な指導者の下で指導実績を積みながら指導方法を学ぶことができる仕組みづくりを支援	対策本部 (競技団体分・ 県スポ協委託) 県直接執行 (公立分)	2,019 2,334	1,219 1,814	△ 800 △ 520	
4 24 25 26 27 28 29 31 32 支 え る ・ 環 境 整 備 を	競技用具備品整備	・特殊かつ高額で、個人や競技団体では購入が不可能な、強化練習に必要な競技用具を整備	県直執行	20,063	25,421	5,358	
	サポーターチーム派遣 (スポーツ医学サポート)	・スポーツ医学の分野で専門的知識や技術を持ったスタッフ（トレーナー、栄養士、薬剤師等）を練習へ派遣	対策本部 (県スポ協委託)	6,075	7,388	1,313	【増額】 ・女性アスリートへの支援 ・メニューを追加 ・栄養士派遣を拡充
	遠征帯同トレーナー派遣	・1試合での運動量やコンタクトプレーの多い競技で、かつ全国大会常連校で毎年上位入賞するホッケー競技とラグビーフットボール競技の選手が、より良いコンディションで大会に臨めるように、国体以外の全国大会へトレーナーを派遣	対策本部 (県スポ協委託)	990	990	0	
	国体チームサポーター派遣	・選手がより良いコンディションで大会に臨めるように、国体やブロック大会へ支援コーチやトレーナーを派遣	対策本部 (県スポ協委託)	5,353	5,592	239	
	医学的トレーニング実践	・医学的指標に基づいて選手の身体能力等を評価して、日ごとのトレーニング効果を計測	対策本部	1,025	513	△ 512	
	練習付帯経費	・身体接触の激しい競技で身体づくりやけがの予防のための必要経費や、特殊競技の施設利用料や普段の練習で必要不可欠な練習付帯経費について支援	対策本部	2,600	0	△ 2,600	【統合】 国体選手強化事業へ
31 32 部 活 動 指 導 教 員 の 代 替 非 常 動 講 師 等 配 置 事 業	部活動指導教員の代替非常勤講師等配置事業	・国スポ推進教員、スポーツ推進教員、重点校指定の私立高等学校部活動の指導教員が、国スポに向けた競技力向上の取組等を行う場合、代替で受け持ち授業等を行う非常勤の講師等を配置	対策本部 (県学・分・県スポ協委託) 県直接執行 (公立分)	0 0	4,143 8,230	4,143 8,230	【新規】 【新規】
	トップアスリートコーディネーター関係経費 (報酬・活動費)	・競技スポーツに理解のある企業の開拓、アスリートのマッチングを行う会計年度任用職員を配置	県直執行	4,075	4,792	717	
33	県スポーツ協会人件費・事務費		対策本部	25,983	27,335	1,352	
33	対策本部事務局運営費		対策本部	4,835	4,910	75	
34	会計年度任用職員人件費（事務）		県直執行	0	2,490	2,490	
合計				249,074	292,498	43,424	

事業執行	R4 予算	R5 予算	増減
対策本部執行分	217,701	(※) 244,230	26,529
うち県スポ協委託	52,848	75,659	22,811
県直接執行分	31,373	48,268	16,895

(※) R7国総体に向けた強化費が、左記とは別に5,864千円あり  
(合計250,094千円)

## 島根かみあり国スポ強化指定校の指定

### 1 趣旨

- これまで、全国大会で活躍が期待される競技について、重点的に支援する高校等を『スポーツ推進重点校』として指定し、強化活動を支援。
- 現指定（R3～R5）が最終年度を迎えることから、国スポに向けた新たな制度『島根かみあり国スポ強化指定校』を設け、R6～R12まで継続指定。
- 指定校は、県高体連の推薦を受け、競技力向上対策本部が決定。

### 2 制度概要

別紙要領のとおり

### 3 選考（案）

別紙のとおり

### 4 スケジュール

- 8/9 選手強化対策委員会で協議
- 8/29 競技力向上対策本部会議で決定
- 9月上旬 教育委員会会議で報告（R6 推薦入試と連動）
- R6.4月 国スポ強化指定校指定

### 5 その他

- 次年度以降も必要に応じて追加指定を実施
- 『R7 全国高校総体中国ブロック開催に向けた強化指定校』と重複指定となる場合は、国スポ強化指定校へ移行

## 島根かみあり国スポ強化指定校について

### 1 趣旨

島根かみあり国スポに向けて高校生の競技力向上を図るため、重点的に支援する高等学校運動部等を指定し、強化活動を支援する。

### 2 対象

国民体育大会正式競技であり、島根県高等学校体育連盟(以下、「県高体連」という。)に加盟する競技専門部のうち、高等学校運動部活動において選手強化活動を行う運動部活動、もしくは県高体連競技専門部

### 3 指定の種類

指定の種類は「単独型」、「複数型」、「個人指定型」、「拠点型」とする(詳細は別紙参照)。

### 4 指定基準

県高体連から推薦のあった競技の中から、以下の①～③の基準に基づいて、島根県教育委員会(以下、「県教委」とする。)と協議のうえ、島根県競技力向上対策本部(以下、「対策本部」とする。)が決定する。

- ①特別体育専任教員及びスポーツ推進教員の配置校
- ②今後3年以内に、国民スポーツ大会、全国高校総体、及び全国選抜大会(選手権大会)でベスト 16 以上の成績が見込まれる学校(国民スポーツ大会では選抜チームの主力となる学校)、もしくは個人指定の競技
- ③その他、対策本部が認める学校、もしくは個人指定の競技

### 5 指定期間

指定期間は、島根かみあり国スポが開催される令和 12 年度末までとし、原則として期間中の変更はしない。ただし、特段の事情により変更の必要が生じた場合は指定基準に基づいて、県教委と協議のうえ、対策本部が決定する。

### 6 支援内容

- ①全国大会等での実績に応じた、強化活動に係る経費の助成
- ②指導者の配置
- ③スポーツ特別選抜入試の適用(スポーツ推進教員が配置されている学校の個人指定競技を含む)
- ④その他、競技力向上を図るうえで、対策本部が必要と認めるもの



# 島根かみあり国スポ強化指定校 選考案（競技別）

No.	競技名 競技種目名	現在重点校		新規		IH強化指定から国スポ強化指定へ				男子		各種指定校				女子		各種指定校				
		指定校	備考	R3～R5指定	R7IH指定校	備考	西部隠岐拠点校	指定校	備考	R3～R5重点校	R7IH指定校	備考	西部隠岐拠点校	指定校	備考	R3～R5重点校	R7IH指定校	備考	西部隠岐拠点校			
1	スケート																					
2	アイスホッケー																					
3	スキー																					
4	陸上競技	-	個人指定	個人指定									-	個人指定	個人指定							
5	水泳（競泳）			個人指定											個人指定							
	（水球）	江津	単独	江津											-							
	（飛込）			個人指定											個人指定							
	（A S）																					
6	サッカー	立正大淞南	複数	立正大淞南				益田					松江商業	拠点	松江商業							
		大社	複数																			
7	テニス	開星	単独	開星											開星							
8	ボート	江津工業	拠点	江津工業									松江東	拠点	松江東							
9	ホッケー	横田	単独	横田									横田	単独	横田							
10	ボクシング	-	個人指定	個人指定									-	個人指定								
11	バレーボール	安来	複数	安来				浜田					安来	単独	安来						浜田	
		松江工業	複数		松江工業	特別																
	ビーチバレーボール	大東	拠点	個人指定											個人指定							
12	体操	大社	複数		大社	特別	浜田					大社	複数		大社	特別	浜田					
		浜田	複数		浜田	特別							浜田	複数		浜田	特別					
新体操													開星	単独	開星							
13	バスケットボール	松江東	単独	松江東				浜田					松江商業	単独	松江商業							益田
14	レスリング	隠岐島前	単独	隠岐島前									隠岐島前	単独	隠岐島前	個人指定		特別				
		松江工業	拠点		松江工業	特別																
15	ヨット	隠岐水産	拠点	隠岐水産	一般	隠岐水産							隠岐水産	拠点		隠岐水産	一般	隠岐水産				隠岐水産
16	ウエイトリフティング	出雲農林	拠点	出雲農林									出雲農林	拠点	出雲農林							
17	ハンドボール	江津	単独		江津	一般	江津						江津	単独		江津	一般	江津				江津
18	自転車	出雲工業	拠点	出雲工業	一般								出雲工業	拠点		個人指定	一般					
19	ソフトテニス	松江工業	複数	松江工業									松江西	複数	松江西							
		出雲北陵	複数																			
20	卓球	出雲北陵	単独	出雲北陵									明誠	単独	明誠							
21	軟式野球																					
22	相撲	隠岐水産	拠点		隠岐水産	一般	隠岐水産															
23	馬術																					
24	フェンシング	安来	単独	安来									安来	拠点	安来							
					松江工業	特別										個人指定	特別					
25	柔道	開星	複数	開星									出雲西	複数	出雲西							
		平田	複数	平田									平田	複数								
26	ソフトボール	三刀屋	単独	三刀屋									三刀屋	単独		三刀屋	一般					
27	バドミントン	松徳学院	単独	松徳学院									松江商業	単独		松江商業	一般					
28	弓道	出雲	単独	出雲									出雲	単独	出雲							
29	ライフル射撃	立正大淞南	単独	立正大淞南									立正大淞南	単独	立正大淞南							
30	剣道	大社	単独	大社									大社	単独	大社							
31	ラグビー	石見智翠館	単独	石見智翠館									石見智翠館	単独	石見智翠館							
32	山岳				松江北（登山）	一般										松江北（登山）	一般					
33	カヌー	島根中央	拠点	島根中央									島根中央	拠点	島根中央							
		出雲農林	拠点	出雲農林									出雲農林	拠点	出雲農林							
34	アーチェリー	松江東	複数										松江東	複数		松江東	一般					
		出雲工業	複数		出雲工業	一般							出雲工業	複数								
35	空手道				出雲工業	一般										松江南	一般					
36	銃剣道																					
37	クレール射撃																					
38	なぎなた												出雲北陵	単独	出雲北陵	個人指定	特別					
39	ポウリング																					
40	ゴルフ																					
41	トライアスロン																					

指定競技： 28競技

指定校数： 22校

個人指定： 2競技

指定競技： 26競技

指定校数： 22校

個人指定： 2競技

島根かみあり国スポ強化指定校 選考案（学校別）

No.	学校名	男子		女子	
		指定競技	他の指定	指定競技	他の指定
		継続	新規	継続	新規
1	安来	バレーボール フェンシング		バレーボール フェンシング	
2	情報科学				
3	松江北		登山（IH一般）		登山（IH一般）
4	松江南				空手（IH一般）
5	松江東	バスケットボール アーチェリー		ボート アーチェリー	
6	松江工業	バレーボール レスリング ソフトテニス	フェンシング（IH特別）		
7	松江商業			サッカー バスケットボール バドミントン	
8	松江農林				
9	大東	ビーチバレーボール			
10	横田	ホッケー		ホッケー	
11	三刀屋	ソフトボール		ソフトボール	
12	飯南				
13	平田	柔道		柔道	
14	出雲	弓道		弓道	
15	出雲工業	自転車 アーチェリー	空手（IH一般）	自転車 アーチェリー	
16	出雲商業				
17	出雲農林	ウエイトリフティング カヌー		ウエイトリフティング カヌー	
18	大社	サッカー 体操 剣道		体操 剣道	
19	大田				
20	邇摩				
21	島根中央	カヌー		カヌー	
22	矢上				
23	江津	水球 ハンドボール	ハンドボール（西隠）	ハンドボール	ハンドボール（西隠）
24	江津工業	ボート			
25	浜田	体操	バレーボール（西隠） 体操（西隠） バスケットボール（西隠）	体操	バレーボール（西隠） 体操（西隠）
26	浜田商業				
27	浜田水産				
28	益田		サッカー（西隠）		バスケットボール（西隠）
29	益田翔陽				
30	吉賀				
31	津和野				
32	隠岐				
33	隠岐島前	レスリング		レスリング	
34	隠岐水産	ヨット 相撲	ヨット（西隠） 相撲（西隠）	ヨット	ヨット（西隠）
35	開星	テニス 柔道		新体操	
36	立正大浜南	サッカー ライフル射撃		ライフル射撃	
37	松徳学院	バドミントン			
38	松江西			ソフトテニス	
39	出雲北陵	ソフトテニス 卓球		なぎなた	
40	出雲西			柔道	
41	石見智翠館	ラグビー		ラグビー	
42	明誠			卓球	
43	益田東				
		28競技、22校		26競技、22校	

※男女陸上競技、男女ボクシングについては個人指定とする

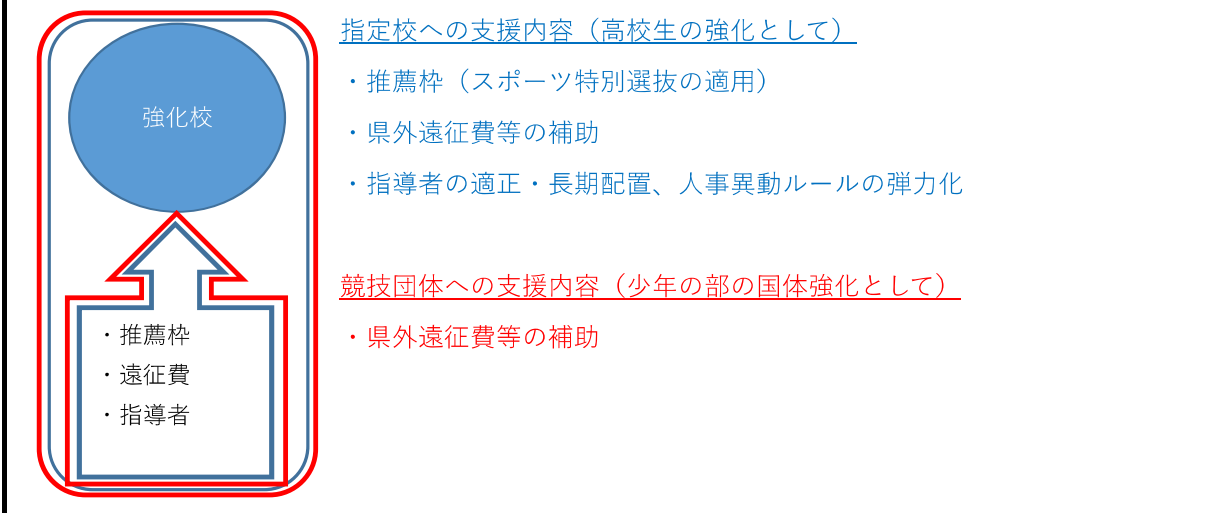
## 島根かみあり国スポに向けた、高校生の強化の方法

### 【表の見方】

高校生の強化については、高校（学校）への支援と、競技団体への支援の2本立てを考えています。

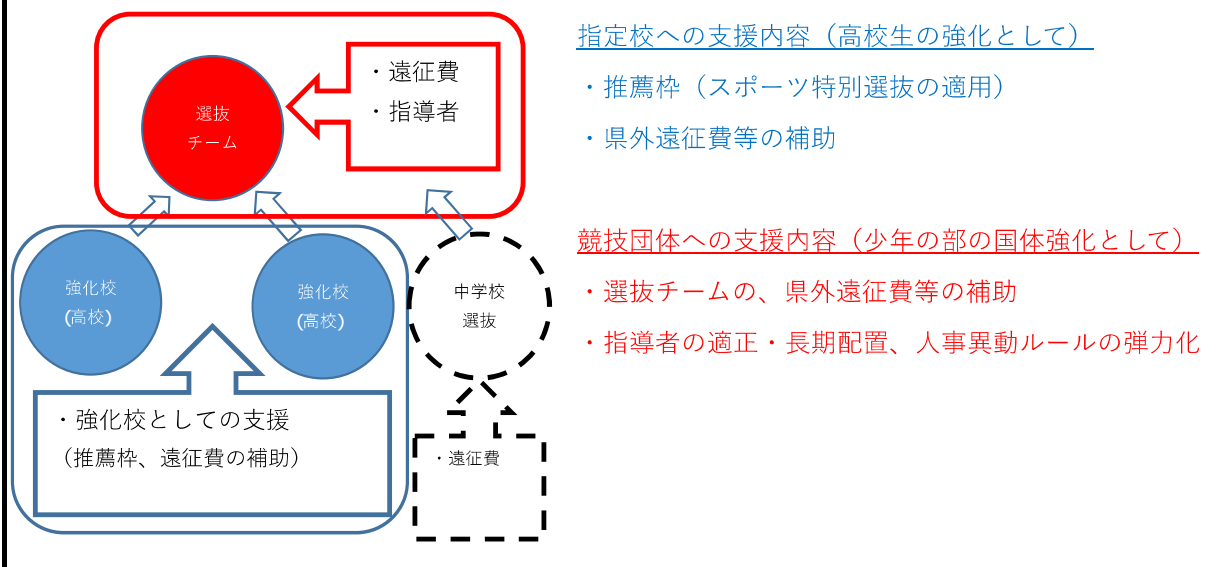
青文字・青枠は強化校への支援（高校生の強化）、赤文字・赤枠は競技団体への支援（国体強化）としています。

### ①. 「単独型」：強化校を1校（男女別）に限定して、集中的に強化を図ることが効果的な競技



### ②. 「複数型」：2校以上（男女別）の競技力が拮抗しており、複数校指定して強化を図ることが効果的な競技

※国体に向けては、指定校の優秀選手を中心に選抜チームを組み、競技団体として強化を図る



③. 「個人指定型」：学校単位で指定するよりも、個人を指定して強化したほうが効果的な競技

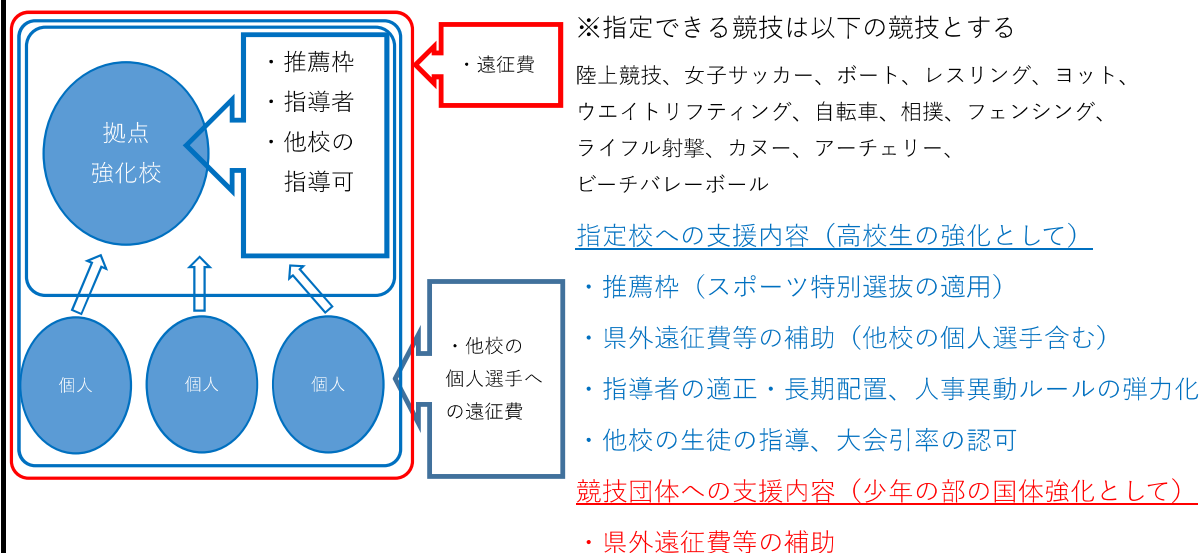
高体連専門部への支援内容（高校生の強化として）

- ・ 県外遠征費等の補助

競技団体への支援内容（少年の部の国体強化として）

- ・ 県外遠征費等の補助

④. 「拠点型」：強化の拠点となる学校（施設）が県内に限られており、その高校を中心に強化を図ることができる競技



⑤. 「社会体育型」：強化の主体が高校（部活動）ではなく、社会体育活動等の競技団体中心で強化活動が実施されている競技

※指定できる競技は以下の競技とする

スケート、アイスホッケー、スキー、水泳（競泳、飛込、AS）、ボクシング、馬術、  
クライミング、空手道、銃剣道、ゴルフ、ボウリング、トライアスロン

競技団体への支援内容（高校生の強化、および少年の部の国体強化として）

- ・ 県外遠征費等の補助

## スポーツ医科学サポート専門部会の設置

### 1. 目的

島根県競技力向上対策本部（以下、本部）が実施するスポーツ医科学サポート事業について、事業に携わる専門家から意見を聞き、効果的な事業内容や実施体制について検討する。

### 2. 検討会の位置づけ

選手強化対策委員会配下の専門部会として運営

### 3. 検討事項

- ①スポーツ医科学事業で実施するサポート内容、実施方法について  
（フィジカルチェック、メディカルチェック、栄養サポート、心理サポート、  
フィジカルトレーニングサポート等）
- ②スポーツ医科学サポートセンターの設置について
- ③その他スポーツ医科学事業に関すること

### 4. 委員

[島根県選手強化対策委員会委員（スポーツ医科学に関する有識者）]

- ・ 門脇 俊（島根大学医学部助教 スポーツドクター）
- ・ 川本 晃平（島根大学医学部リハビリテーション部 県アスレティック  
トレーナー協議会）
- ・ 原 丈貴（島根大学教育学部）

[スポーツ医科学事業に携わる各分野の有識者]

- ・ 安達 章（県スポーツ協会 生涯スポーツ課長）
- ・ 嘉田 将典（県理学療法士会副会長）
- ・ 名和田 清子（県栄養士会会長）

## 島根かみあり国スポに向けた育成期の取組状況と課題

### 1 目標

将来につながる本物の競技力の定着、地域に根ざしたスポーツの振興を通じた天皇杯、皇后杯の獲得

### 2 取組計画

西暦	期間	目標	重点取組	開催県
2021	育成期	30 位台 (850 点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各競技の長期計画策定</li> <li>・競技団体の体制整備</li> <li>・小学生の発掘・育成（特に未普及競技）</li> <li>・指導者確保・配置に係る教員の制度整備</li> <li>・指導者の確保（教員、企業、スポ協、県職員など）</li> <li>・成年選手の確保（U・I ターン、ふるさと選手）</li> </ul>	三重 (中止)
2022				栃木
2023				鹿児島
2024	充実期	20 位台 (1000 点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の育成・強化</li> <li>・高校生の強化（重点校の拡充）</li> <li>・指導者の確保（教員、企業、スポ協、県職員など）</li> <li>・成年選手の確保（U・I ターン、ふるさと選手）</li> <li>・成年団体競技の受皿確保</li> </ul>	佐賀
2025				滋賀
2026				青森
2027	躍進期	10 位台 (1150 点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・候補選手（中高生、成年）の強化</li> <li>・成年選手の確保（U・I ターン、ふるさと選手）</li> <li>・成年団体競技の受皿確保</li> </ul>	宮崎
2028				長野
2029				群馬
2030	開催年	1 位 (2600 点)	・国スポ選手の強化	島根
2031 以降	継続期	20 位台保持 (1000 点)	・競技力の定着	

### 3 栃木国体（R4）の成績

男女総合 43 位（680 点） 女子総合 41 位（452.5 点）

**【課題】**

- ・入賞競技が 40 競技中 10 競技と他県と比較して少ない  
（男女総合優勝の東京都は 37 競技で入賞）
- ・入賞競技： ホッケー、ラグビー、カヌー、陸上競技、レスリング、卓球  
フェンシング、ライフル射撃、セーリング、バドミントン

**【補足】**

**中国ブロック大会突破競技・種目数**

	競技数	種目数計（1 位突破）	内訳	
			団体種目数（1 位突破）	個人種目数（1 位突破）
R4 栃木	18 競技	40 種目（27 種目）	24 種目（15 種目）	16 種目（12 種目）
R1 茨城	16 競技	36 種目（20 種目）	21 種目（10 種目）	15 種目（10 種目）
H30 福井	16 競技	32 種目（18 種目）	16 種目（6 種目）	16 種目（12 種目）

- （評価）
- ・中国ブロック大会の突破競技種目数は茨城大会に比べ 2 競技 4 種目増加
  - ・1 位での突破種目数は、茨城大会に比べ 7 種目増加
  - ・栃木大会の突破種目数並びに 1 位突破種目数は過去 10 年間で最も多い

#### 4 育成期（R3～R5）の取組

##### （1）競技団体の組織体制の整備・充実

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技の長期計画の策定・遂行支援（策定、評価、点検、見直し）</li> <li>先催県、中央競技団体からの情報収集支援（旅費、謝金）</li> <li>競技団体の伴走支援</li> <li>競技団体のヒアリング（毎年度末）</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技団体の強化体制整備（強化責任者、各種別強化担当）</li> <li>各競技の長期計画の策定・遂行</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴走支援の強化（充実期に向けた長期計画の見直し、課題対応等）</li> </ul>
R6取組	上記取組に加え、 <ul style="list-style-type: none"> <li>対策本部職員を増員し、伴走支援を強化【調整中】</li> </ul>

##### （2）選手の発掘・育成・強化

###### ア 小学生の発掘・育成・強化

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動能力に優れた小学生を選抜し、未普及競技の選手として育成</li> <li>競技体験会、スポーツ教室による選手の発掘・育成支援</li> <li>選抜選手の強化練習会、大会参加支援</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国スポ時の成年・少年選手の発掘</li> <li>国スポ時の少年選手の計画的育成</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>未普及競技の選手確保</li> <li>選手の計画的な育成、強化</li> </ul>
R6取組	上記取組を継続

###### イ 中学生の育成・強化

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技体験会、スポーツ教室による選手の発掘・育成支援</li> <li>選抜選手の強化練習会、大会参加支援</li> <li>種目転向による選手の確保（小6対象の種目変更トライアウトの実施）</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国スポ時の成年選手の発掘・強化</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>未普及競技の選手確保</li> <li>小学年代からの継続的な育成・強化</li> <li>活動の場がない競技の活動環境整備</li> </ul>
R6取組	上記取組に加え、 <ul style="list-style-type: none"> <li>育成キッズ（仮称）の認定、育成【R5実施予定】</li> <li>中学生対象のクラブ創設・活動支援【新規】</li> </ul>

###### ウ 高校生の強化

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ推進重点校の強化活動支援</li> <li>種目転向による選手の確保（中3対象の種目変更トライアウトの実施）</li> <li>成年選手への期待メッセージ（R5重点校合同研修会（リーダー研修））</li> <li>選手への医科学サポート（医科学スタッフ派遣、遠征帯同、トレーニング指導）</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国スポ時の成年選手の強化</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>未普及競技の選手確保</li> <li>スポーツ推進重点校の拡充</li> <li>指導者の確保（教員・民間企業など）</li> <li>選手の県外流出防止</li> </ul>

R6 取組	上記取組に加え、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国スポ強化指定校の指定【スポーツ推進重点校を改称・拡充】</li> <li>・高校生の競技活動支援【新規】</li> <li>・地域部活動指導者（部活動指導員・地域指導者）派遣【拡充】</li> </ul>
-------	---

## エ 成年選手の強化

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと選手の確保（知事の手紙）</li> <li>・大学生の県内就職支援（R4～競技団体と連携して実施）</li> <li>・強化練習会、大会参加支援</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年選手の確保・強化</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと選手の確保強化</li> <li>・県内就職支援の強化</li> </ul>
R6 取組	上記取組に加え、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスリート登録制度の整備【新規】</li> <li>・ふるさと選手の確保、大学生の県内就職支援の強化</li> </ul>

## (3) 指導者の確保・養成・資質向上

取組	<p><b>[指導者の確保]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員での確保（教員採用試験での特別枠創設など）</li> <li>・国スポ推進教員任命、スポーツ推進重点校に配置</li> <li>・地域指導者の部活動派遣</li> <li>・県職員での確保（県職員島根創生枠試験の実施）</li> <li>・県スポーツ協会での確保（水泳・体操競技）</li> <li>・民間企業等への就職支援</li> </ul> <p><b>[指導者の養成、資質向上]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者研修会の開催支援、トップコーチ育成</li> <li>・指導者の資格取得支援</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者確保の仕組構築（教員、県職員、スポ協、民間企業）</li> <li>・指導者確保（アーチェリー）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の確保・充実</li> <li>・指導者の資質向上</li> </ul>
R6 取組	上記取組を継続

## (4) 選手・指導者を支える環境整備

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生の育成や選手強化に必要となる競技用具や練習拠点施設を整備</li> <li>・医科学サポーターをスポーツ推進重点校や競技団体へ派遣 （スポーツトレーナー、スポーツ栄養士、メンタルトレーナー、 スポーツファーマシスト、女性アスリートサポートスタッフ（女医））</li> <li>・国体や全国大会へ医科学サポーターを派遣</li> <li>・重点校や競技団体の選手を対象としたメンタルトレーニング研修を開催</li> <li>・アスレチックトレーナーの育成</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手への医科学サポート実施</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手への医科学サポート強化（医科学的知見によるトレーニング、診療・治療・健康相談、女性アスリート支援、遠征等への帯同など）</li> </ul>
R6 取組	上記取組に加え、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ医科学サポートセンターを設置【新規】</li> </ul>



(参考) 天皇杯・皇后杯獲得に向けた取組の方向性

■少年の強化

各競技（特に未普及競技）の小学生選手の発掘・育成（R5～R9）



中高生での継続した強化（R7～R12）

2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2
小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1
小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3

■成年の強化

中高生の強化（R5～R11）



大学で競技継続、ふるさと選手で確保（R6～R12）



県内就職支援（R5～R12）

2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
大 4	社会人	社会人	社会人	社会人	社会人	社会人	社会人
大 3	大 4	社会人	社会人	社会人	社会人	社会人	社会人
大 2	大 3	大 4	社会人	社会人	社会人	社会人	社会人
大 1	大 2	大 3	大 4	社会人	社会人	社会人	社会人
高 3	大 1	大 2	大 3	大 4	社会人	社会人	社会人
高 2	高 3	大 1	大 2	大 3	大 4	社会人	社会人
高 1	高 2	高 3	大 1	大 2	大 3	大 4	社会人
中 3	高 1	高 2	高 3	大 1	大 2	大 3	大 4
中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	大 1	大 2	大 3
中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	大 1	大 2
小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	大 1

## 医科学サポートの体制整備【R6 新規】 (スポーツ医科学サポートセンター(仮称)の設置)

### 1 事業目的

医科学サポートを行う『スポーツ医科学サポートセンター(仮称)』を設け、医科学サポート体制を強化する。

### 2 現状・課題

- ・先催県では、診療や健康相談、リハビリテーション指導、体力測定、トレーニング指導、医科学スタッフ派遣などを行うセンターを設け、アスリートへの医科学サポート体制を整備している。
- ・本県では、トレーニング指導、医科学スタッフ派遣、大会等への帯同は行っているが、診療や健康相談、リハビリテーション指導など、医療面からの支援体制は未整備となっている。

### 3 センター概要(イメージは別紙のとおり)

#### (1) 機能

##### ①診療・治療相談

- ・アスリートからの診療・治療相談を受け、相談対応や診療・治療を実施
- ・来院が困難なアスリートには、協力病院・診療所を紹介

##### ②リハビリテーション指導

- ・アスリートへのリハビリテーション指導を実施
- ・必要に応じ、理学療法士会などと連携

##### ③スポーツに関する健康相談

- ・電話、メール、SNS等により相談を受け、アスレティックトレーナー協議会、理学療法士会、栄養士会、薬剤師会などと連携して対応

##### ④女性アスリートの健康相談

- ・③と同様

##### ⑤トレーニング指導

- ・島根大学や環太平洋大学などと連携し、アスリートの体力測定や評価、トレーニング指導を実施
- ・必要に応じてアスレティックトレーナー協議会、理学療法士会、栄養士会、薬剤師会などと連携

##### ⑥スポーツ医科学支援事業

- ・競技団体、国スポ強化指定校などの依頼を受け、県スポーツ協会や保健体育課の医科学支援事業につなぐ

※①～④はスポーツに取り組む全県民対象、⑤～⑥は県の強化指定者対象

#### (2) 実施体制

検討中

### 4 実施時期

R6 年度中にセンターの体制を整え、運用を開始

# 《ただでは帰さない》

## パフォーマンス向上・現場復帰



医療施設  
(スポーツドクターのいる病院、診療所)

- ・ 診察、治療

医療施設など

(日本スポーツ協会公認AT、島根県アスレティックトレーナー協議会認定AT、理学療法士のいる施設)



- ・ リハビリテーション
- ・ トレーニング指導

島根大学、IPU (環太平洋大学)

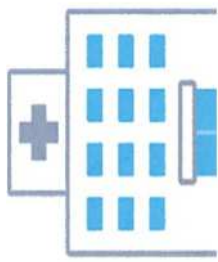


- ・ 体力測定と評価、  
トレーニング指導

島根県アスレティックトレーナー協議会、理学療法士会、  
栄養士会、薬剤師会など

- ・ 健康相談
- ・ 栄養指導
- ・ トレーニング指導
- ・ メンタル指導
- ・ アンチドーピング教育

スポーツ医科学  
サポートセンター (仮称)  
(女性アスリートサポート  
センター (仮称))



### 窓口担当者の配置

- ① 診療、治療相談
- ② リハビリテーション指導
- ③ スポーツに関する健康相談
- ④ 女性アスリートの健康相談
- ⑤ トレーニング指導
- ⑥ スポーツ医科学支援事業  
(県スポ協事業、保体課事業)

※①～④は全県民対象  
⑤～⑥は強化指定者対象



アスリート

- ・ 体づくり、体力向上
- ・ けがの発生
- ・ スポーツ活動をする  
うえで健康に関する不安



## 高校生の競技活動支援事業【R6 新規】

### 1 事業目的

- ・ 島根県の代表として活躍が期待される競技力の高い選手を指定、競技活動を支援することで経済的負担を軽減し、競技力向上への意識と意欲を高める。
- ・ 高校進学時の生徒の県外流出を食い止めるとともに、県外生のしまね留学を促す一助とする。
- ・ 自身が島根県を代表する選手であるという自覚を高め、将来のふるさと選手登録の道筋をつける。

### 2 現状・課題

- ・ ジュニア選手の発掘・強化や高校生に対する遠征費等の支援を行っているところだが、選手個人の競技活動費の支援は行っておらず、経済的負担が生じている。
- ・ 高校進学時に、就学等を理由に約 30 名（※）の生徒が県外転出しており、その大部分が部活動の強豪県外校への進学によるものと推察される。  
（※）令和 4 年「島根の人口移動と推計人口」の 15・16 歳の県外転出者計
- ・ また、切れ目なく強化を行ってきた選手が、高校卒業後に県外に進学又は就職した場合、ふるさと選手として国スポに参加してもらうよう仕向けていくことが重要だが、この仕組みが十分ではない。

### 3 事業内容

#### (1) 支援内容

##### ① 競技活動費支援

- ・ 指定選手全員に、競技活動費として月額 1 万円（年額 12 万円）を支給する。

##### ② 寮費等支援

- ・ 寮や下宿生活をしている選手には、①に加え、寮費（下宿費）として月額 4 万円（年額最大 48 万円）を上限に支給する。

#### (2) 対象選手

##### ① 選考基準

###### 【個人競技】

次のいずれかの条件を満たし、かつ、競技団体から推薦のあった者

- （ア）全国大会等において 8 位入賞相当の実績のある者
- （イ）年代別の日本代表に選定されている者
- （ウ）中央競技団体の強化指定を受けている者
- （エ）中央競技団体の招集する強化合宿等に参加した者

###### 【団体競技】

次のいずれかの条件を満たし、かつ、競技団体から推薦のあった者

- （ア）年代別の日本代表に選定されている者
- （イ）中央競技団体の強化指定を受けている者
- （ウ）中央競技団体の招集する強化合宿等に参加した者
- （エ）都道府県選抜チーム等に選出され、特に顕著な活躍が見られた者



## 中学生の競技継続対策事業【R6 新規】

### 1. 事業目的

中学校に部活動が設置されていない競技について、中学生を対象としたスポーツクラブの創立・運営を支援する。

### 2. 現状・課題

- ・ 競技人口が少ない未普及競技の中には、中学校に部活動が設置されていない競技が 26 競技あり、中学生になって競技転向をせざるを得ない状況がある。
- ・ スポーツクラブの創立・運営を支援することにより、部活動地域移行の受け皿の一つとなることが期待できる。

### 3. 事業内容

#### ① スポーツクラブ創立支援事業

競技団体が新たに運営または指定するスポーツクラブの創立を予定する年度またはその前年度において、競技に必要な用具等の購入費用を支援する。

#### ② スポーツクラブ運営支援事業

競技団体が運営または指定するスポーツクラブの運営に必要な経費を支援する。

事業	対象競技	対象経費	要件
①スポーツクラブ創立支援事業	・ 中学校に部活動がない競技 ・ 社会体育での活動がない競技 (11 競技)	【競技用具等の購入費】 ・ 需用費（消耗品等） ・ 備品購入費	・ 競技団体からの推薦を受けていること（原則、1 競技団体 1 クラブ）。 ・ 原則、週 4 回以上年間を通じて活動すること。
②スポーツクラブ運営支援事業	・ 中学校に部活動がない (26 競技)	【運営に必要な経費】 ・ 指導者謝金、交通費 ・ 施設使用料 ・ 需用費（消耗品等） ・ 保険料	・ 収益事業としてのスポーツクラブでないこと。 ・ スポーツ教室開催支援事業補助金の対象でないこと。

部活動、社会体育での活動状況

○…活動あり ×…活動なし

No.	競技名（種目）	①中学校の部活動の有無			②中学生の社会体育活動の有無	①②いずれもなし	備考
		男子	女子				
1	スケート	×	×	×	○		
2	アイスホッケー	×	×	×	○		
3	スキー	×	×	×	○		
4	陸上競技	○	○	○	○		
5	水泳						
	競泳	○	○	○	○		
	水球	×	×	×	○		
	飛込	×	×	×	○		
	A S	×	×	×	○		
6	サッカー	○	○	○	○		
7	テニス	○	○	○	○		
8	ローイング	×	×	×	○		
9	ホッケー	○	○	○	×		
10	ボクシング	×	×	×	×	×	商業ベースあり
11	バレーボール						
	6人制	○	○	○	○		
	ビーチバレー	×	×	×	×	×	
12	体操						
	体操競技	○	○	○	○		
	トランポリン	×	×	×	○		
	新体操	○	×	○	○		
13	バスケット	○	○	○	○		
14	レスリング	×	×	×	○		
15	ヨット（セーリング）	×	×	×	×	×	
16	ウェイトリフティング	×	×	×	×	×	
17	ハンドボール	○	○	×	○		
18	自転車競技	×	×	×	○		
19	ソフトテニス	○	○	○	○		
20	卓球	○	○	○	○		
21	軟式野球	○	○	○	○		
22	相撲	○	○	×	○		
23	馬術	×	×	×	×	×	商業ベースあり
24	フェンシング	×	×	×	○		
25	柔道	○	○	○	○		
26	ソフトボール	○	×	○	○		
27	バドミントン	○	○	○	○		
28	弓道	○	○	○	○		
29	ライフル射撃	×	×	×	○		
30	剣道	○	○	○	○		
31	ラグビーフットボール	×	×	×	○		
32	スポーツクライミング	×	×	×	○		
33	カヌー	○	×	○	○		
34	アーチェリー	×	×	×	×	×	
35	空手道	×	×	×	×	×	商業ベースあり
36	銃剣道	×	×	×	×	×	
37	クレール射撃	-	-	-	-		免許が必要の為、中学生不可。
38	なぎなた	×	×	×	○		
39	ボウリング	×	×	×	×	×	商業ベースあり
40	ゴルフ	×	×	×	×	×	商業ベースあり
41	トライアスロン	×	×	×	×	×	

○ : 20

○ : 38

× : 26

× : 8

× : 11

## 成年選手の確保強化事業【R6 新規】 (アスリート登録制度(仮称)の新設)

### 1 事業目的

大学・社会人で活動するアスリート情報を集約し、ふるさと選手の確保や、大学卒業時の就職支援を強化する。

### 2 現状・課題

- ・成年選手の確保は、競技団体の取組に委ねているが、取組状況に大きな差がある
- ・国スポに向け、少年選手の計画的育成と並行して、国スポ強化指定校で強化した高校生を成年選手として確保する仕組みが必要である

### 3 事業概要

- ・アスリート登録制度(仮称)を設け、部活動顧問等を通じて高校卒業時に登録を依頼(R5.11月頃)
- ・登録情報を活用し、ふるさと選手の働きかけや、大学卒業時の就職支援等を行う(R6)
- ・島根便りやメールでの情報発信を行い、島根への関心を維持する(R6)

### 4 実施時期

R5 年度中に制度構築し、R5 年度の高校卒業生から運用開始

#### 【運用イメージ】

